

(30) 奥山愛宕神社 (おくやまあたごじんじや)

住所：三重県伊賀市勝地1855

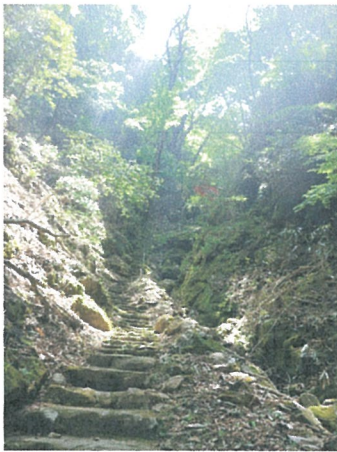
TEL：0595-52-0153

参拝日：2014年5月22日

主祭神：火之迦具土神



奥山川と権現橋



参道



拝殿と鳥居

由緒 (石碑)

古くから、奥山権現の尊称で崇敬され、火伏せ、病気平癒、戦勝祈願、厄除けの神として崇敬されてきた。江戸時代に眼病が大流行したとき霊験があり、一躍有名になり、明治以降は、戦地へ赴く際の戦勝祈願に多くの人が訪れた。

その創建の由来は明かでないが藤堂高虎が伊勢、伊賀に転封された際、その家臣山内某が信仰していた愛宕神を現在の地にお祀りしたのが始めといわれている。

境内のブナの原生林は昭和40年に三重県天然記念物に指定された。

権現川の清流に沿って神社に至る林道にはかつて一丁ごとに丁石が建てられていたが、現在は28基を残すのみとなった。

県道2号線 (伊賀青山線) を比々岐神社から約1.5km北上すると、右手に見える奥山愛宕神社の標識から右折する。狭い林道を奥山川に沿って約5km程行くと、権現橋と書かれた石橋がある。この橋を渡り石の鳥居や数個の朱色の木の鳥居をくぐり、森に囲まれた長い苔むした石段を登ると朱色の拝殿や神楽殿、参籠所、手水舎がみえてくる。本殿はよく見ることはできなかったが、春日造りとのことである。境内から青山高原へ続く東海自然歩道を少し歩くと右手に植林したスギ・ヒノキ林があり、左手の斜面には美しい新緑のブナ原生林を堪能することができる。三重県農林水産部の広報によるとこのブナ林は高度640～700mで約5haにわたり、ブナを中心にハリギリ、ミズナラ、クヌギ等が群生しており、亜高木にはシキミ、イヌツゲ等、その他ツル植物、草本植物も多く群生しているようだ。ブナやミズナラなどは通常は700m以上の高度で生息することから、このブナ林は全国でも珍しく昭和48年に県天然記念物に指定されている。



道標とスギ、ヒノキの人工林



ブナ林

例祭は4月24日、秋季大祭10月24日
他に年間恒例祭儀17回

由 緒（三重県神社誌）

勧請の年代は詳かでないが、当社は往古より現社地に鎮座し、火伏せの神として衆人の尊崇を集めて来た。俚伝によると慶長二年藤堂高虎が伊予国から伊賀へ転封にさいし随従してきた家臣山内某が信仰していた火之迦具土神を現社地に鎮祀したのに始まるといわれる。天明の初年眼病が流行した時、目の患者が祈願して靈験があつてから名声はますます広がったという。一の鳥居から奥山川の清流に添う参道には丁石が建っている。社業のブナの原生林は昭和四八年に三重県天然記念物の指定をうけた。青山高原展望台に至る一・三キロメートルは東海自然歩道になっている。本社鎮座の位置は、伊勢と伊賀の国境をなす布引山の嶺中であつて四面皆山に接する処、参道に添う清流と沿道の四季の佳景は賞するに価する。